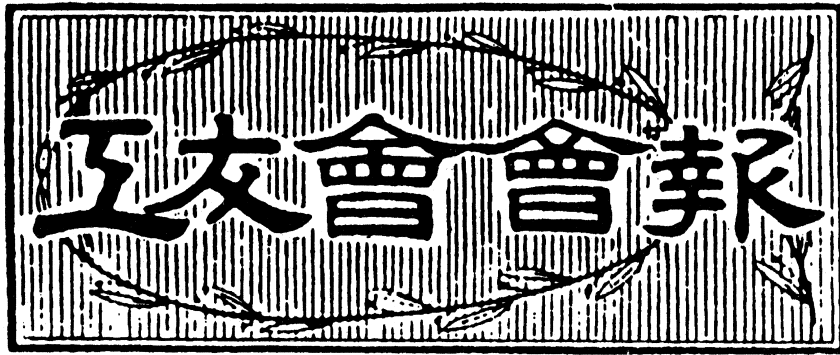


発行所
岡山県立岡山工業高等学校
工友会
岡山市伊福町4丁目3番92号
編集責任者: 武田保正
福嶋 肇
印刷所: 旭総合印刷



ご意見、情報はこちらまで
TEL 086-252-5231
FAX 086-252-7130
http://www.okako.com/
HP担当: 今井(昭58年子卒)

ごあいさつ



工友会会長
萩原 明
(昭和17年土木科卒)

平成十五年度の工友会会報

を発行するにあたり、一言ごあいさつを申し上げます。まずは工友皆様のご清祥をお慶び申しあげ、日頃の工友会活動に対するご支援、ご協力にお礼を申しあげます。早いもので、母校の百周年が終わり二年が経過しました。

記念事業として建設した記念会館がホール、食堂共好評で有効に活用されていることを報告申し上げます。資料博物館もございまして、機会があれば是非一度、ご覧下さるようお願い申し上げます。母校の卒業生は、開校以来、

平成十五年三月の卒業生を含めて二万六千余名となりました。亡くなったお方もおられますので、現在の工友の数は約一万八千名位と推定されますが、全国各地で活躍されており、慶賀に存ずる次第でござ

います。

平成十五年は内外共に多彩な一年でございました。外ではイラクを中心とする中東紛争、アジアにおけるサージの流行等々、内ではデフレ、不良債権による倒産等々、経済的な不況が続ぎ、ご苦労されている工友諸兄も多いのではないかと案じております。

二十世紀私達は、西欧文明に追いつけ、追い越せで今迄きました。気がついてみれば自動車、電気製品等々世界の最高水準に達しており、経済大国にもなっております。これからは、技術的に世界

をリードする立場と考えられます。二十一世紀はナノテクの時代といわれますが、数々の新しい胎動が既にみられます。私達は技術的な自信と信念を持って、誇りある母校の歴史を背景に進みたいものと

存じます。

年度変りで校長、教頭の異動がありました。長江校長が定年でご勇退、大高教頭が笠岡工業高等学校の校長としてご栄転、変って宇佐見校長、川上教頭が赴任されました。長江校長、大高教頭には百周年事業遂行の中心となって動いて頂き、事業を立派に成し上げて下さいました。心より感謝の意を表し、これからのご多幸、ご活躍を祈念するものでございます。

平成十五年は春の叙勲で石井稔(機二十四)、矢吹和義(機二十六)、秋の叙勲で中原一郎(機十六)、大塚勝正(機二十六)、中谷豊(化二十六)、小林進(機二十六)、那須基男(木二十六)の皆さんが受章の栄に浴されました。ご本人のお慶びもさることながら、工友の一人として誠に名誉なことと存じ、心より祝福申しあげるものでございます。

平成十五年度の工友会総会は七月十三日(日)岡山プラザホテルで開催され、総会、懇親会と楽しい一時を過ごすことが出来ました。今回は西部技術コンサルタント(株)支部のお世話でございましたが、支

部長の萩原章弘さんをはじめ関係各位のご苦勞に感謝申し上げるものとございます。西部技術さんは小さな支部ではございますが、西田社長さんが、三代目工友会長・青木恒志さんにつながる縁でお引き受け頂きました。有難うございました。

平成十六年の総会は、三井造船さんのお世話で七月十一日(日)に予定されており、工友諸兄を奮ってのご参加をお願い申し上げます。最後に、工友諸兄の益々のご活躍、ご健勝を祈念し、母校の繁栄を願うごあいさついたします。

平成16年度
工友会総会
平成16年7月11日(日)
10時より
会場: 岡山プラザホテル ☎ 086-272-1201
総会担当 三井造船(株)玉野支部支部長
田淵 隆

いあいさつ



学校長
宇佐見 一郎

寒さの中にも春の気配が感じられる頃となりました。私は昨年四月から本校でお世話になっていまして、私

は輝かしい歴史と伝統をもつ本校に勤務させていただくことを誠に光榮に存じております。未熟者ではございますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

工友会員の皆様方には、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。平素から母校教育の充実・発展のために物心両面にわたり一方ならぬご理解とご支援を賜っており誠に有難うございます。心から厚く御礼申し上げます。とりわけ創立百周年記念事業の実施に際しましては格別のご支援を賜りました。お陰をもちまして教育環境の一層の充実を図ることができました。ここに改めて心から厚く

いるところでございます。現役の生徒たちも、勉学に部活動にと励んでくれております。部活動では、昨夏のインターハイをはじめとする全国大会に陸上競技、自転車競技、ボクシング、カヌーの体育部に二〇名、囲碁同好会の全国大会団体戦をはじめ写真部や美術部などの文化部に六名の生徒が出場いたしました。

全国大会連続出場を目指したラグビー部は岡山県予選初の両校優勝となり連続優勝の目標は達成しましたが、抽選の結果残念ながら花園への出場権を手にすることはできませんでした。夏季国体に三名、秋季国体には七名が出場しております。

また、メカトロニクス技術



スターリングカーラリー全国大会で、2年連続の優勝を飾った機械科。

などを駆使して競技する各種大会においても優秀な成績を収めています。昨秋、日本工業大学で開催されたスターリングエンジンモデルを動力とする模型自動車ラリー全国大会で機械科三年チームが一位と三位という素晴らしい成績で連覇しております。

また、県内で行われたロボットコンテストでは情報技術科と電気科から参加したチームが一位から四位までの上位を独占したり、先月北海道で開催されたマイコンラリー全国大会に中国地区代表として電気科三年の二名が出場したりするなど県内外の多くの大会で岡工の技術力の高さを示す大活躍をしています。

この他、デザイン科では各



各部、それぞれの大会で優秀な成績を収めた。写真は山岳部の夏季合宿、立山山頂にて。

種ポスター公募等で優秀な成績を収めるなど、各専門科とも各科の特長を活かした幅の広い取り組みをして大きな成果を挙げています。

このように生徒は勉学と部活動の両立を目指して頑張ってくれており誠に頼もしい限りです。教職員は、新世紀を迎えた本校教育の更なる充実を図り、二十一世紀の我が国の基盤を支える有為な人材の育成に尽力する決意を新たにしているところでございます。今後とも皆様方の暖かいご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、工友会の益々のご発展及び会員各位の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。



街の美化に協力しようと落書き消しのボランティア活動に参加したデザイン科。

平成15年度 工友会総会 総会を終えて

西部技術コンサルタント支部長
萩原章弘
(昭和四十八年土木科卒)



工友会の皆様には、益々ご清業のこととお慶び申し上げます。母校創立百周年を経て二年目の年、平成十五年度の工友会総会を、西部技術コンサルタント支部で担当させて頂き、平成十五年七月十三日(日)岡山プラザホテルにおいて、皆様のご協力の中、盛大に開催する事ができました。「総会に当たりましては、担当支部にご指名以来支部員総員十三名ですが諸準備を進めてまいりました。」当日は激しい雨の中、二百名を超える多数の会

員の皆様のご出席を頂きました。総会は萩原会長、宇佐見校長の挨拶で始まり、続いて平成十四年度事業・決算・監査報告、平成十五年度事業計画、予算及びその他の審議を頂き滞りなく終えることができました。尚、事務局より昭和十四年機械科卒業の石井稔様、昭和十四年瑞宝章を、昭和二十六年機械科卒業の矢吹和義様が勲四等旭日小綬章を受賞されたことの紹介があり、出席の矢吹和義様に萩原会長より、お祝いの贈呈が行われました。

当日所要でご欠席の石井様には後日事務局より届けて頂きました。この名誉に對し後輩として誠に誇りに思う次第でございます。本当におめでとうございます。

懇親会では、開会宣言、鏡開き、乾杯に続き、それぞれの談話の輪と懇親旧交を暖める宴となり、楽しい一時を過ごして頂いたものと思っております。今後も、この総会へ多くの会員皆様が集まり、盛大な会になることを心より願っております。

最後になりましたが、総会に際しましてご協力を頂きました諸先生、諸先輩として当日の受付を快く手伝って下さった「あじさいの会」、「山陽設計支部」、「大和技術(株)」の皆様本当にありがとうございます。またご多忙中にもかかわらず、遠路お越しを頂きました工友会会員の皆様に心より感謝申し上げます。

皆様の益々のご健勝、ご多幸、そして工友会並びに母校の発展を祈念してお礼の挨拶とさせていただきます。

『平成十六年度総会に向けて』

三井造船(株)玉野支部支部長
田淵 隆 (昭和四十一年電気科卒)

工友会の皆様方にはご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。平成十五年度は、西部技術コンサルタント(株)支部の皆様のお世話による工友会総会に出席させて頂きありがとうございました。緻密な計画と意気の合ったスタッフの連携のもと、非常に立派な総会でした。

者と若手中心の総会準備委員会を発足し議論を交わした結果、『総会及び懇親会が工友会会員の皆様と母校の発展に寄与する情報交換の場となるようさらなる工夫を行う事』。『若い会員、女性会員の皆様に、より参加して頂ける工夫も行う事』。以上二点をテーマに掲げ準備を進めているところでございます。

さて、平成十六年度には三井造船(株)玉野支部でお世話を担当させて頂くことになりました。当支部は、支部始まって以来の新人女性会員二名を含め機械、電気、土木科出身者を主体の総勢五十名で構成されております。前回総会を担当させて頂いたのは平成八年度でございます。しかしその時の中心メンバーの殆どは退職されており、今回の担当は新しいメンバー主体で行う事となりました。支部といたしまして、昨年末に前回の経験

どうか工友会の皆様、先輩諸氏から若い方、女性の皆様まで、幅広くお誘い合わせ頂き、多くの会員皆様のご参加のもと総会の成功と、母校、工友会の益々の発展を望む所存でございます。よろしくお願い致します。

なお、今年度の総会開催日は、平成十六年七月十一日(日)、会場は昨年と同じ岡山プラザホテルでの開催を予定しております。

支 部
だ よ り

【関東支部】

関東支部長
板野 尚武
(昭和25年土木科卒)

工友会の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。関東支部は平成十五年度総会を昨年の四月六日に東京駅丸の内北口の『みかど』二階宴会場において、本部より萩原会長、母校より宇佐見校長、武田事務局長の来賓を仰ぎ、女性会員一名を含む会員二十六名が出席して開催致しました。

総会は、池口事務局長（三十四機卒）の司会により、前記来賓のご挨拶、出席会員の紹介、会務会計報告、岸本会計監事（二十五機卒）による会計監査報告と記念撮影をもって無事に終了しました。

引き続き、懇親会に入り、最も先輩の守屋得一氏（十機卒）の音頭による乾杯から始まり、出席会員の紹介、来賓のご三方

のご挨拶にあった母校や郷土の現況を中心に話の輪が大きくなり、最後は校歌斉唱と手締めで締め、再会を約して解散致しました。

当日の参加者の内訳は、昭和十年卒業の大先輩から昭和五十年卒業の中堅まで、機械科卒十四名、土木科卒九名、化学科卒十三名で、他の科の卒業生は昨年に続き皆無で、出席者も年々減少しているのが残念ながら現状です。次回の平成十六年度の総会と懇親会は会員の中原一郎氏（十六機卒）の叙勲の祝賀を兼ねて盛大に行う予定です。

年一回発行の支部会報には諸先輩の随筆、訃報や転勤、転居などの会員近況、会務報告と会計報告表などを掲載し、本部会報と同封で会員に配布しています。戦前から続いている伝統ある関東支部の活性化を図り、『会員相互の親睦を図る』をモットーに支部活動をしていきますので、よろしくご支援のほどお願い申し上げます。

関東地方に就職または入学される今年の卒業の方は、来る四月二十五日（日曜日）十一時から、東京駅丸の内北口『みかど』で開催する総会と懇親会に

ご招待致しますので、皆さんお誘いのうえ是非ご出席下さい。お待ちしております。

連絡先

〒二五四〇八〇七

平塚市代官町八六一四〇二

池口健児（三十四機卒）

TEL・FAX

（〇四六三）二四二二四八七



【大阪支部】

(岡友会)

工藤 隆男
(昭和37年工業化学科卒)

工友会会員の皆様には、ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。

平成十五年度第二十三回大阪支部（岡友会）の総会が十月二十五日（土）十二時より恒例の場所になっていきます京橋扶桑会館で開催されました。毎年のことながら日程が秋の行楽時期と重なり、心配致しましたが会員諸氏のご協力で約四十名強の方がご参集され、久ぶりに再会され総会前の一時を楽しく過ごされました。

総会前に幹事会が開催され、一年間の業務報告とその反省、次年度の取り組み事項、会計報告、会計監査、幹事推薦等が話し合われました。総会には、ご多忙の中ご来賓として工友会本部萩原会長、宇佐見校長、佐

藤工友会副事務局長の先生方にご出席を頂きました。

総会は黒田岡友会会長（化学科昭和二十年卒）より、母校創立八十周年を期して昭和五十六年に岡友会は再発足致しました。この間、工友会本部、母校のご指導、在阪会員のご協力です。第二十三回総会を迎えられたこと。また、母校百周年の記念会館建設に寄せられた会員諸兄弟のご協力に心より感謝致します。なお、昭和九年土木科を卒業された三宅大先輩も出席していただき、現在と異なり東古松・南方校舎と校舎が違えど、誠実勤勉を基とした岡工で学んだ者が一同に会することは意義があると考えます。今後とも工友会の在阪支部として、工友会本部のご指導を頂きながら、経済環境厳しいおりながら在阪会員の連絡・親睦の会として運営していく所存です。と挨拶されました。

萩原会長からは、母校百周年記念会館建設事業の行事は募金から始まり、土地、会館建設、お披露目と一連の催しは無事終了し、改めて工友会の大きな仕事であったと感じています。偏に卒業生二万五千人強を送り出した「伝統が誇れる」工友

会員の結集と考えています。そして岡友会が大阪近郷の在阪支部として、今後も益々発展されることを期待する。とのご挨拶を頂きました。

宇佐見校長先生より、記念会館建設にあたってのご協力に大変感謝しています。なお、会館の一階は先輩のデザインが施され、明るい食堂として学生達は喜んでのこと。三階は資料博物館として百年間分の資料が展示してあります。また、学校全体が「津島遺跡」と関係が深く、各実習棟の更新を順次進めております。学生諸君も学業の他に体育祭、インターハイ等に参加し、好成績を得ている者、就職に関する進路は、経済環境を反映して厳しい面がある。等のご報告を頂きました。佐藤先生(副事務局長)より、記念会館の有効利用、ご訪問があれば、いつでも入場できるように段取りいたします。また、工友会名簿(二〇〇四年版)の計画を進めています。業者による直接勧誘等の話も聞くので、この点は注意して頂きたい。(工友会とは無関係です)百周年の記念誌(三千円)も発行している旨、ご紹介がありました。そして、会員諸氏の交流の

場としての工友会会報の充実に努めたく、記事があれば、どしどし応募して欲しい、との要請もありました。

議事に入り、為房岡友会事務局長(化学科昭和二十五年卒)より会員動静、親睦ゴルフ大会開催、総会開催等を含む一年間の動きが報告され、続いて会計収支報告、会計監査報告がなされ、報告内容が承認され、無事に総会が終了致しました。

会場を移し三宅大先輩(土木科昭和九年卒)の乾杯の音頭で懇親会に入りました。会では還暦を迎えられた会員に『杯』を贈ることになっており、今年も数名の方に黒田岡友会会長より贈呈されました。毎年の事な



がら、卒業年次、科別の違いはありますが同窓のよしみで、ご来賓の萩原会長、先生方、女性会員さんを囲みお昼のひと時を楽しんで過ごしました。

時間も経過しましたが、恒例になった校歌の斉唱はなく、卒業年次順に壇上に集まり当時の思い出を語り、意気軒昂な面を發揮、お互いに健康に留意し来年の再会を約し散会となりました。第二十三回岡友会(在阪工友会支部)総会が無事終了したことを支部報告と致します。



【女性支部】 (あじさいの会)

鳥越 梓
(昭和33年工業化学科卒)

年振りの総会となりましたが、工友会より武市顧問、高原副会長、母校より福嶋先生のご臨席を賜わり、遠路大阪より三名、県内各地より十五名の会員が出席下さり盛会となりました。総会では平成十三、十四年度事業報告および会計報告等の議事後、今後についての話し合いが持たれました。その結果、出席者全員の意向として、これまで通り女性支部として活動して行くことが確認され、全役員の改選も行われ、新しい態勢が整えられました。

工友会会員の皆様には、ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。女性支部(あじさいの会)は第十五回総会を平成十五年六月八日に岡山駅前『みよしの』で開催いたしました。畑中支部長の急逝に伴い二

続いての懇親会では初めて出席の方々、久しぶりに出席の方々、皆んな学生時代にタイムスリップし、世代を越えて互いに親しみ、語り合い、賑やかに楽しい時刻を過ごしました。七月十三日開催の工友会総



会には、当支部より十一名が参加させて頂きました。懇親会終了後には場所を移して支部役員会を開催し、支部規約の一部改正と忌憚のない意見交換を行いました。

十一月八日の岡工祭では、例年の通り小体育館に作品展示コーナーを設けて頂き、九名の方が夫々の力作を出品下さいました。

女性支部は他の支部と異なる点も多く、その運営方法は今もって暗中模索の状況にあります。今後とも女性支部(あじさいの会)の歩みのために、一層のご指導とお力添えをよろしくお願い申し上げます。

【広島支部】

広島支部長
足立 良成
(昭和30年工業化学科卒)



工友会員の皆様には、ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。平成十五年度の広島支部総会は平成十五年六月七日十一時から「ホテルセンチュリ21」にて開催いたしました。総会には本部から来賓として萩原会長、川上教頭、

武田事務局長様のご出席をいただきました。支部会員として足立支部長(昭和二十九化卒)、河原克平(昭和十三土卒)、黒崎万亀夫(昭和十七土卒)、伊丹剛(昭和二十六土卒)、内田和男(昭和二十七土卒)、服部芳弘(昭和二十九土卒)、谷口幸男(昭和三十機卒)、末広勉(昭和三十化卒)、三近秀樹(昭和三十五建卒)、田形信行(昭和三十六機卒)、岸本義徳(昭和三十七土卒)、石井剛(昭和四十二土卒)、梶谷茂(昭和五十一土卒)以上十三名の出席のもとに開催いたしました。

ご来賓の皆様から工友会の活動と母校の近況やら事務局からの連絡などのお話を聞き支部会員として心強く又、懐かしく拝聴いたしました。総会では、一年間の事業報告と会計報告。平成十五年度の事業計画と予算計画が黒崎議長のもと審議し承認されて総会が終了いたしました。

その後は会場を移して懇親会に入り余興として、カラオケや恒例の三近氏の踊りや、在校当時のスピーチ等々、お昼のひとときを楽しく過ごしました。

支部行事としては、夏期親睦会として平成十五年八月一日に支部会員九名参加してピアホールにて暑気払いを開催いたしました。又毎月第二水曜日に行われている親睦ゴルフ「岡広会」のコンペでは恩藤孝彦氏(昭和三十七土卒)が優勝されました。次に、秋期親睦会を三近幹事長の企画のもと開催いたしましたので紹介いたします。

「門司港と下関市・城下町長府散策記」

三近秀樹(昭和三十五建卒)

深秋漲る十一月八日〜九日に広島支部秋期親睦会として希望者の参加を募って、門司港レトロ口地区、長府城下町や下関地区に会員十名で一泊二日のバス旅行を催しました。

初日の門司港レトロ口地区では、JR門司港駅、旧門司三井倶楽部、旧大阪商船、旧門司税関等、大正ロマンが漂い、その昔大陸を目指した青年の血が現にも駆け巡る思いに慕いました。

参加者の河原克平先輩は、この港から青年の意気に燃え

て大陸へ渡られたそうです。

下関長府城下町では、十四代毛利家藩主元敏の旧長府毛利邸、日露戦争で激戦を戦った乃木大将が祭られし乃木神社、土壁や漆喰壁が連なる小路等、武家屋敷が犇めくように並んでいた様に思い巡らし、江戸と明治の時代にタイムスリップをしてみました。

夜の宴会では、下関名物のフグ刺しとフグ尽くしの料理に舌つづみを打ち、青春時代を過ごした母校での懐かしい思い出話を肴に、大いに盛り上がり親睦を深めることができました。

翌日は、フグのセリ市で有名な唐子市場の見学と買い物、水族館「海響館」とイルカやアシカのショーを楽しく観覧。一四三mの展望「海峡ゆめタワー」に昇り、荒ぶる響灘と波静かな瀬戸内の周防灘が対

象的に一望でき、



眼下には宮本武蔵と佐々木小次郎が戦った巖流島が掌中にあるがごとく見えました。二日間とも天候に恵まれ、バスの中でも楽しい時間を過ごして好評のうちに予定通り無事に帰広いたしました。この度の親睦会行事に御協力いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

以上

創立百周年記念事業
につきましては多くの
会員並びに関係各位よ
り多大のご協力を頂き、
立派な『百周年記念会館』
が完成しました。ご寄付
を頂きました皆様の卒
科年、氏名を記した芳名
板を三階の資料博物館



創立百周年記念事業募金芳名録



入口の踊場に掲げてあ
ります。記載には細心の
注意を払っておりますが、
万一誤字、脱字などあり
ましたらご指摘を頂き
たいと思います。

記念会館は毎日大切
に使わせて頂いており
ます。また資料博物館に
は「工業教育百年の足跡」
を残す充実した展示を
するよう心がけています。
是非お立寄り下さい。

祝 栄 誉

春の叙勲

勲三等瑞宝章 石井 稔 (機二十四年卒)
勲四等旭日小綬章 矢吹 和義 (機二十六年卒)

秋の叙勲

瑞宝中綬賞 中原 一郎 (機十六年卒)
瑞宝小綬章 大塚 勝正 (機二十六年卒)
瑞宝小綬章 中谷 豊 (化二十六年卒)
瑞宝単光章 小林 進 (機二十六年卒)
瑞宝単光章 那須 基男 (木二十六年卒)

新校舎建設始まる

事務室

本校かねて念願であった、
新校舎の建築が開始されまし
た。鉄筋コンクリート三階建て、
一階は土木科、二・三階は化学
工学科が主に使用する予定で、
内訳は次のとおりです。

- 一階部分
土木科 一〇八六・五〇m²
ガス庫 五・二四m²
- 二階部分
化学工学科 五一六・七五m²
三階部分
化学工学科 五一六・七五m²
延べ面積 二二二五・二四m²

工事期間は、平成十五年七
月十日から平成十六年六月三
十日までとなっております。校
舎改築は、老朽化に伴って本
校の要望していたことで、県
の理解を得て、平成十四年の
夏期休暇中に化学工学科棟が
解体撤去され、十月から半年
間工事区域の文化財発掘調査
の後、十五年度に工事開始予
定が二ヶ月繰り上げられ着手
されました。

発掘調査では、弥生時代の
土器の破片が大量に見つかり、
同時代の住居跡もかなりの数
が発見されました。調査の専
門家に聞いたところでは、こ
の一体は津島遺跡とつながっ
ており、本校の敷地内はどこ
もこのような状況であるとの
ことでした。

工事の施行業者は、建物本
体を中国建設工業(株)と奥村
建設(株)の共同企
業体、電気工事を
山光電業(株)、給
排水等の設備工事
を建水工業(株)、
設計管理をやなぎ
建築設計事務所が、
それぞれ担当して
現在鋭意進行中
です。建物完成後直
ちに使用できるよ
うに、建物内部の
設備等の整備を現
在計画ですが、
厳しい財政事情も
あり両科の要望に



どこまで応えられるか、現在
大変苦慮している状況であり
ます。

また、現在の土木科棟は、十
六年度中に解体撤去される予
定です。校舎改築は、まだまだ
道半ばの状況で電気科棟の改
築、理科棟の大規模改修、体育
館の耐震改修、旧岡山市工校
舎の取扱等々要望は多岐にわ
たっており、厳しい財政事情
少子化の進行に伴う県立学校
の再編整備等県の理解を得る
までに、長い時間が必要と思
いますが、学校長以下一丸と
なつて実現に向けて努力して
いきたいと考えています。

遺伝子「燃える砂漠に

ヘリコプター

義若 基

（昭和二十年機械科卒）



『遺伝子』血は争われぬもの。

二百年前の交易船がヘリコプターに、瀬戸内、玄界灘がインド洋、ペルシャ湾、世界市場へと、形・規模は変わりましたが、私は、八浜の島人表具師幸吉、高田屋嘉兵衛北辺の護り、その水手日比の百姓金蔵オロシア漂流と、色気の高い多彩な人生を経験しました』とは、故郷の、昔廻船問屋・義若総本家に、最近書き送った『義若友造次男義若基之履歴』の中の一文です。

昭和二十七年（1952年）、大阪大学篠田軍治先生から『そろそろ航空機を再開するようだ』とのご指導を得て入社した川崎機械工業（後に川崎航空機を経て川崎重工に合併）、最初の仕事が毎日循環型酸素呼吸器を背中に池の周りを走る人間実験台、いやに

なつて大学を訪ねた。同年4月末のことであった。

尊敬する千田香苗先生から『学者はピュアーでなければならぬ。君は色気が有り過ぎる。大学は金を払って来る所、会社は金を貰いに行く所』と諭されて、それで一生川重『金無』。

人生の幕引きが近付いた今となつては、川重ヘリコプターで分相応、普通人の経験しない事業に多々係わる事が出来たと反省している。

昭和五十年（1975年）九月、伊藤忠商事（株）室伏稔開発部部長補（伊藤忠商事前社長、現会長）が、ロンドン在、世界の政商T社の副社長、常務を川重岐阜工場に案内し、その前年メツカ巡礼テント村で発生した火災大災害、消防ヘリコプターのニーズを報じた。この来訪が、燃えるサウジ砂漠



にKV
一〇七
II A防
災ヘリ
コプタ
ーを展
開して
オペレ
ーショ
ンする
という
壮大な
国際ヘ
リコプ

タープロジェクトの導火線となったようだ。

KV107II Aサウジプロジェクトは、川崎重工業（株）が、世界の強豪、シコルスキー、ベル、エアロスパシヤル、ウエストランド社等と競合して勝利受注した、サウジアラビア内務省の防災ヘリコプター団の創設に係わるプロジェクトで、第一次契約（昭和五十二年八月成約）と第二次契約（昭和五十七年八月成約）の二契約からなり、総契約金額は五百億円程度であったと記憶している。

契約内容は、指揮連絡、消防、救助、病院等四機種十六機のKV107II Aヘリコプター、部品材料・補用品および整備・修理用機材を輸出納入し、サウジ国内に五基地（リヤド、ジェツダ、ダーラン、アブハの四基地と一前進基地）―各基地とも、ヘリポート、格納庫、運航司令室、要員執務室、修理工場、部品倉庫、消火訓練用水プール、要員居住およびレクリエーション施設等からなる―を建設し、全基地にヘリコプターを展開して十年間運航整備する。さらに、パイロット、整備士等約三百名のサウジ人トレイニーを米国で基礎教育を実施した後サウジアラビア国内にて訓練育成し、十年後の契約終了時に全てのオペレーションを彼等サウジ人運航要員にトランスファーするというフル・ターン・キー・プロジェクト、わが国の航空産

業界には、未経験、異例の大プロジェクトであった。

川重、伊藤忠合同チームは、異なる文化、厳しい環境に耐え、筆舌に尽くし難い艱難辛苦を乗り越えて、昭和六十三年（1988年）八月、十年余にわたった本契約を見事成功裏にこれを完遂した。

小生、当初ヘリコプター設計部長、比較的短期間にシステム開発を完了し、その直後に東京営業へ転出、燃える砂漠の国際商戦に参入することとなった。サウジアラビアでは約一年間運航指導と営業活動に汗を流した。



昭和五十六年（1981年）の初日の出をリヤド基地で迎え、ノンアルコールの缶ビールで乾杯、一月二日には予算関連でサウジアラビア内務省に呼び出されていた。

当該ヘリコプターは、第一次契約から四半世紀経った今もなお健在、今年（2003年）も二月八日から始まったメツカ大巡礼、一七〇カ国数百万モスレムの安全確保に大活躍した。

『還暦の再会』

六戸 克也

(昭和三十七年電気科卒)

平成十五年一月三日電子科・電気科一期生の合同同窓会を四十二年ぶりにメルパルクで行った。当時の恩師村上先生、渡辺先生、秋山先生も元気で参加下さりまして三十一名が集まった。

頃の岡山工業高校時代の話を書く予定でしたが、平成十二年二月二十五日発行の工友会会報第四十一号に同級生の二宮正典君が「ほろ苦い思い出」で詳しく書いておられるので省略します。

一期生は入学時は電気通信科の生徒として入学したものの二年生進級時に、電子(弱電)コース・電気(強電)コースとして別れ、卒業時には電子科・電気科としての卒業証書をお願いした。つまり元々同じクラスだった。今回参加した大部分の人が還暦を迎える年でしたが話題は岡工時代の楽しかった事や苦労話に盛り上がり、制限時間もまたたく間に

私共の卒業した昭和三十七年は日本の高度成長経済の始まりの頃でした。電子科・電気科を初めて卒業する未知数の我々に対して一人に数社から「ぜひ我が社へ来て欲しい」と言われ会社のリクルーターが学校へ頭を下げて頼んで来た事を思い出します。今の反対の状態でした。

なり、制限時間もまたたく間になくなってしまう場所を替え二次会へと繰り出した。

今回の再会で各方面での活躍ぶりの姿にお互い感動さえ覚えました。『人生は馬拉ソレースのようなものだ』と言われませんが、高校時代三年間、進学して大学時代の専門科目の二年間の勉強のみでは成績順に成功するとは限らず、社会に出ての生涯研鑽された方がはるかに専門家になっ

て元気で過ごされているのが恵まれてる感じです。生徒の私共の中には物故者も数名いるのが残念です。今回私も昭和三十四年から昭和三十七年

る感じですが。つまりそれぞれ研鑽されていた人が多いのに感動しました。今や日本は不況でマスコミも暗い記事ばかりで、私共の頃とは隔世の感があります。世界を見るとかつての工業高校卒のやっていた仕事を中国を始めとする東南アジアで低い賃金で肩替りしている事実です。賃金も日本の十分の一以下で日本のほとんどの製造業は円高もあつて生産拠点を移しているようです。このままではゆくと二十一世紀は中国が台頭してくるものと思われ

れます。日本で今、元気のある企業は小さな工場でも世界一の技術を持った『オンリーワン』の企業です。『ナンバーワン』のソニーですら苦しんでいる状況ですが、職人技・特殊技術があるのが生き残りの道を感じます。やはり技術立国の我が国は『工(たくみ)の道の学舎に…』学んだ我々の心意気を託してそのような技術者が出てほしいものと思います。日本の景気も大底を打って明るさを取り戻しつつあり、中国も日本の良きパートナーとして見直

しつつあり私も未来に期待しております。三年後に電子科・電気科の同窓会をやる事を誓い合せて別れました。その時まで一人も欠けることなく元気で日本の景気が回復することを祈りつつ再会を楽しみにしております。





授業中の小松先生昭和六十年頃

ろは、NC旋盤を導入して授業に活用したり、8ビットマイコンで情報関連の学習を取り入れるなど活況がありました。

しかし産業界の変化が激しく、企業では軽薄短小に加えて多種少量・生産地を海外に移行する状況が現れ、そのうえに、少子高齢化が加わりました。これらことから、全国規模で職業教育の見直しと指導内容が再検討され、そのような流れの中で、岡工も学科改編やクラス減等が実施され、機械科は、三クラスから二クラスになりました。

指導内容で特記すべき事項は、工業数理と課題研究が全

科に導入されたことです。工業数理は数学と工業の融合をはかり、資格検定を取得するきっかけにもなりましたし、課題研究は実習の形態をかえたために、新しい物づくり大会・イベント・研究発表などの催しがあり、岡工生もスポーツの成果と共に新聞やマスコミに報道されるようになったことは、喜ばしいことです。最後になりましたが、これまでのご支援に対しまして、心から感謝申し上げますと共に、岡工のますますの前進と工友会のさらなるご発展をお祈り申し上げます。



「岡工生として」

第五十四期生徒会会長
湯浅 昌典
(情報技術科3年)



入学生に歓迎の言葉をかける湯浅君。

私は岡工生徒の代表として、この一年間第五十四期生徒会会長を務めました。この三年間は工業生として有意義なものでした。

一年生の時、創立百周年記念ということもあってか生徒会活動がとて活気に満ちあふれていました。この年は百周年記念マスケット「アツと君」が体育祭や岡工祭に活躍しました。この一年間はこのマスケット一色に彩られた一年だったというくらい「アツと君」

はとても人気でした。私にとってこの一年は忘れようにも忘れられないというほど良い思い出となりました。みんなも同じように良い思い出となったと思います。

二年生の頃、前年度以上の活気をみせるため生徒会一丸となって取り組みました。この一年は昨年度に勝る一年だったと思います。

三年生になり最高学年として後輩達の先頭に立ち、体育祭や岡工祭などの生徒会行事に積極的に取り組みました。体育祭ではデコレーションパネルに応援合戦と先輩としての力を試される大きな行事でした。応援合戦は三年生を中心に各個性豊かな応援でとても大きな盛り上がりを見せました。デコレーションパネルも各科特色のあるデコレーションパネルを制作しました。どの科のデコレーションパネル

もとても素晴らしいものでした。デコレーションパネルは岡工の「ものづくり」の精神を実感することができました。岡工祭ではさらに一般の方にも「ものづくり」の精神というのは強く伝わったのではないかと思います。

私は岡工の「ものづくり」という精神がとても好きです。この精神は工業生としてとても大事なことだと思っております。先輩方もこの精神をもとに岡工で学び卒業されていきました。そして今先輩方はいろいろな場で活躍されています。私たち第五十四期卒業生は大活躍されている先輩方に負けぬよう、岡工で学んだものを礎とし、岡工生としての誇りと共に、力強く進んでいきます。



「もう五十歳じゃなあ」、「疲れがとれんなったよな」、「お前は変わらんなあ」、「どうしたんなら、頭が真つ白じゃあねえか」。久しぶりの同窓会の会話である。まるで高校生時代にタイムスリップしたように無邪気にはしゃいでいるが、実はストレスを人一倍抱えている管理職の面々である。

昭和四十四年入学時は学生運動の末期ではあったが、授業時間中に赤旗を振り回してわめき立てる連中もいた。また、上下関係が厳しく、恐ろしささえ感じた。土木科は三階建てで、上から一、二、三年生が入っていた。「誰なら？三階からゴミを捨てたのは…」と、しばしば三年生が上がってきては凄むのである。なんとという学校へ来てしまったものかと後悔した。普通科へ進学した



『在学当時の思い出』

青木 俊也

(昭和47年土卒)



友からは、男女共学で仲良く楽しんでいる話をよく聞かされ、羨ましく思ったものである。しかし、羨ましく思ったのも数ヶ月であつた。というのも、

になり、楽しくなったからである。そして、友の家によく遊びに行った。初めて聞く地名、初めて行く所、時には長逗留し、友の家から登校したこともあり、しばしば先生に注意を受けるはめになつてしまった。

我々土木科では、日生、西大寺、建部、総社、倉敷等々、それぞれ出身中学が違つていたので、珍しい話も聞け、和も広がつていき、すぐにクラスが一つ

の発展と、諸先生並びに同級生の皆様のご活躍とご健勝をお祈り申し上げ、拙文を締めさせていただきます。

この歳になり、今の高校生を見るとなんと情けないことかと思うが、あの頃と同じように世間では見られていたのだろう。正直、楽しい思い出ばかりの三年間で書きつくせません。ただ、言えることは、よき師、よき友との出会い、そして岡工を卒業したことを誇りに思い、感謝の気持ちでいっぱいであることです。

最後に、母校の益々

旧職員の思い出

『岡工時代の思い出』

小松 信道
(元機械科科長)

工友会の皆様におかれましては、ご健勝でご活躍のことと心からお喜び申し上げます。また、岡山工業高等学校におかれましては、平成十四年度には、記念館の落成式典を挙行され、心からお喜び申し上げます。

わたしは、昭和五十四年四月から機械科に赴任して、平成十四年度に退職するまで、長きにわたり岡工に勤務させていただきました。

平成十三年度には創立記念行事や創立記念式典に参加できたことは、このうえない喜びです。

わたしが赴任した当時は、機械科実習棟が二階から三階に増築された時でありました。

このころは、一学年三クラスで、生徒の取得単位数は、LHR・必修クラブを含めて一〇二単位数、普通科目と専門科目の単位数が四三単位と五三単位で



機械科棟の増築工事
昭和五十六年二月十六日撮影

した。そのために、より専門的な学習に重点を置いていきました。産業界では、重厚長大から軽薄短小に移行していく時代でもありました。そのこ



後輩の活躍

■情報技術科

第六回渋川海岸清掃ロボットコンテスト 出場(3/6NHK放映) 仁科ロボットコンテスト二〇〇三年第三位

築け天守閣！築城ロボットコンテスト 優勝および第三位 第二十三回全国高等学校IT・簿記選手権大会東中国大会 IT部門

本大会 団体四位(昨年度準優勝)

新人戦 団体優勝(全国十位)

新人戦 個人 第二位(是永全国四位表彰)第三位 基本情報技術者 一名

初級システムアドミニストレーター二年 四名

■電気科

マイコンカーラリー全国大会出場

仁科財団ロボットコンテスト 準優勝

築城ロボットコンテスト 準優勝 第四位

ものづくりコンテスト中国大会

電子回路組立部門 優勝

■ラグビー部

県大会(花園予選) 優勝

■自転車競技部

日本ジュニア代表選手に選ばれている

五年連続全国大会入賞

他各種大会上位独占

■陸上競技部

インターハイ・国体・日本選手権出場 上位入賞多数

■ボクシング部

インターハイ出場

中国大会 学校対抗 優勝

■カヌー同好会

国体少年の部 第三位

■山岳部

県秋季大会 男子個人総合第一位 第三位

男子団体 第二位

■写真部

全国高校総合文化祭 出展

■美術部 全国高校総合文化祭 出展

■吹奏楽部 県高校美術コンクール 金賞

■吹奏楽部 県吹奏楽コンクール 金賞

■囲碁同好会 全国高校囲碁選手権 出場

■囲碁同好会 県囲碁選手権 個人戦 第二、四位

会員名簿

二〇〇四年版の発刊

工友会の会員名簿は五年ごとに発刊しています。

平成十六年が発刊の年になります。今、会員宛に会長名で調査カードが送られます。必要事項を記入してご返信下さい。返信された情報によって名簿が作成されます。このカードは、必ず岡工に届くようになっていきます。業者に直接返送されることはありません。

会員名簿は会員のみの販売で予約制になっていきますのでよろしくお願ひします。

頒布価格は前回と同じ装丁で四千八百円の予定です。

工友会の会員名簿は(株)サラトにお願ひしてあります。調査カードが届く時期になると前回同様サラトがフリーダイヤルを開設して問合せに応じてくれるようになっていきます。

【注意】

未だに『岡工』、『工友会』の名称を使って名簿や広告などの勧誘をする業者がいます。

文面には「学校、同窓会とは関係ない」ことを明記している場合もあります。工友会とは一切関係ありませんのでくれぐれもご注意ください。

またそのようなことがありましたら工友会事務局までお問い合わせ下さい。

編集後記

創立百周年記念事業、記念行事等につきましては会員の皆様にご協力をお願いがとうございました。

今、高等学校は全国的に再編が進み、ものづくりで日本を支えてきた工業高校も例外ではなく減少傾向にあります。この不況の最中、工業高校は厳しい現実に向直しています。世間から評価を受け、認められる工業高校だけが残って行く時代です。母校が無くなってつらい思いをしている人が大勢います。工友会も永遠に続いて欲しいと願っています。生徒も教員も頑張らなければなりません。先輩の皆様の母校に対する叱咤激励も大きな力になります。機会ある毎にご意見等頂戴しますようお願ひいたします。

今回も皆様からご寄稿頂き、工友会会報四十五号を発行することが出来ました。毎回出来るだけ多くの会員から寄稿を頂き、読みたいと思える充実した紙面にしたいと思っています。奮って寄稿頂きますようよろしくお願ひいたします。(H・J)

- 機械科
 - 全国スターリングテクノラリー！高校ノーマルクラス優勝(二連覇)
 - 全国製図コンクール最優秀賞
 - 中務陽吉
- 土木科
 - 県測量技術競技会
 - 平板測量の部 第三位
 - 水準測量の部 第一・二位
 - トランシット測量の部 第二位
 - 中国地区土木系製図コンテスト銅賞
- 化学工学科
 - 危険物乙種全類 三年十五名
 - 二年十三名
 - 危険物乙種四類他 三年三十二名
 - 二年三十名 一年十四名
- デザイン科
 - 緑化運動・愛鳥週間・国体・世界連邦ポスター等、入賞
- 建築科
 - 日本建築学会中国地区高校卒業設計競技会 優秀賞



ご意見・情報
お問い合わせは...

〒700-0013
岡山市伊福町4-3-92
岡山県立岡山工業高等学校

工友会事務局

tel:086-252-5231
fax:086-252-7130
http://www.okako.com/